



市民がつくる環境都市こまき

こまき環境広報

編集：こまき環境市民会議

こどもとおとなの環境会議開催

平成24年2月18日(土)小牧市北里市民センターに於いて午後1時30分から、こまき環境市民会議主催による「こどもとおとなの環境会議」が開催されました。

小中学生、父兄、先生、市民の方約100名の参加者で、昨年に引き続き、市内の学校版環境ISOの取り組みを発表し、あわせて環境問題について考えました。地域の方の参加が少なかったのが残念でした。もう少し子どもたちの環境取り組みへの関心を高める必要性を感じました。



会議の様子

今年の取組は、三ツ淵小学校はごみの分別、省エネ取り組み、エコキャップ回収等、小牧南小学校は落ち葉ひろいで堆肥づくり、給食を残さない、節電等、北里小学校はアルミ缶や牛乳パック回収、地域と協力してのグリーン活動、PTAと共同で野菜づくり等、小木小学校は給食を残さない、紙の再利用、エコライフチェックシート記入によるエコチェック等、米野小学校はごみの分別、節水ポスターによるエコの呼びかけ等の発表がありました。続いて小牧西中学校はエコキャップおよび牛乳パック回収、リサイクル運動、ごみの分別等・北里中学校はごみの分別、リサイクル、掃除を

しっかりやろう、活動を地域に広げたい等、応時中学校はエコキャップ回収、省エネ週間、エコキャップ再生工場の見学等の発表がありました。発表校以外の小・中学校17校は、取り組み紹介のパネルを展示しました。参加者は、少しでも今後の参考にしようと、展示されたパネルをみたり、各学校の発表を熱心に聞き入っていました。

休憩後質疑応答も活発に行いました。

今年も、目標としてごみの分別・アルミ缶回収・ペットボトルのキャップ集めが多くみられましたが、出たごみを集めるのではなく、ごみを出さない努力をしていくようにしたいとの意見が出されました。



質疑応答風景

また、夏休みに小学校4・5年生、中学校1・2年生に家族とともに取り組んでもらった「エコライフチェックシート」の結果も合わせて展示しました。6,027名を対象に実施し、4,530名の子どもたちから回答をいただきました。この「エコライフチェックシート」は、こまき環境市民会議が、環境問題を少しでも身近なものとして考えてもらおうと、家庭とも協力してどうしたら地球温暖化を防げるかを考えるヒントになるとの考えのもとに作成したものです。

今後も、こまき環境市民会議では、皆さんと一緒に小牧市の環境を良くするために様々な事業を展開していきますので、ぜひご理解とご協力をお願いします。

最後にエコクイズで盛り上がり、子どもたちはエコや省資源に対する意識を高めたようです。クイズは13問行い、それぞれの学校ごとに相談して回答して頂きましたが先生でも間違いがあったりして、会場は、楽しんで勉強しました。

問題例

- ・小牧市は平成17年11月に環境都市宣言をしました。なぜ環境都市宣言をしたのでしょうか。
- ・地球温暖化が進むとどうなるか、正しいと思われるのはどれか？
- ・日本の発電方式には、水力、火力、原子力、最近では太陽光や風力発電もありますが、原子力発電の占める割合は何%ですか。
- ・日本には原子力発電所はどれだけあるの？
- ・発電量に占める原子力発電の割合が世界で一番大きい国はどこ？
- ・原子力発電について間違っているのはどれですか。
- ・原発事故があってから「シーベルト」ということばをよく聞きますが、ななに？。



エコクイズ

出題者のコメントでクイズを終わりました

「原子力発電に使う核燃料だって、地球上に無限にあるわけではない。放射性廃棄物も地球上にどんどんたまっていくし事故も心配。

水力発電に適した川ももうありません。火力発電に使う石油や石炭、天然ガスも限りがあります少なくなれば価格も上がります。太陽光発電も風力発電も、天候の影響を受けるのでまだまだ不安定です。いろいろ考えていくと、電気を無駄づか

いしない心がけが何よりも大切なことです。冬は一枚余分に着ましょう。早寝、早起きを心がけましょう。」

最後に環境市民会議副会長の総評で会議を終わりました。

環境問題は地域全体の問題であるので校内にととまらず、いかにして家庭や地域へ波及させるか、また、地域と一体となっていけるかが大切です。地域の将来は私たちが担って行くという心意気を持ってほしい。

○現在の環境について一言

『赤とんぼ・ミツバチ等が減っています』

「夕焼け小焼けの赤とんぼ 負われて見たのは いつの日か」三木

露風が作詞した童謡「赤とんぼ」の一節で、赤とんぼと言えば、網を持って追いかけてまわした記憶があり、原風景の一部となっている方も多いことでしょう。

水辺に生きるトンボたちは、豊かな自然環境のバロメーターのひとつであります。赤とんぼが全国的にも激減しているそうです。原因としては、水辺の減少や環境の変化、農法の変化などさまざまな要因が絡み合っていると思いますが、ほかにも、スズメやミツバチといった、どこでも見かけた生き物たちが減少していると感じている方も多いと思います。

私たちは「より早く」「より便利」「大量生産・大量消費・大量廃棄のライフスタイル」を求め、地球規模での気候変動など、さまざまな環境問題を引き起こしてきました。しかし、これからの私たちは、地球上に生きるもの“みんなの環境”であることに、一人ひとりが配慮しながら行動することが大切な事です。

赤とんぼ等の減少は寂しいだけでなく、私たち人間のライフスタイルへの警告かもしれません。これをしっかりと受け止めて、赤とんぼが乱舞しスズメがうるさいくらいの環境であってほしいものです。



発表校以外の掲示